



子育てをしながら働くために気をつけていること

－西新潟中央病院の子育て支援制度を利用して－

黒 羽 泰 子

西新潟中央病院は、脳神経系、運動器系、呼吸器系が、各科の高い専門性を生かし、特定の疾患に悩まされる患者さんに対し、内科系と外科系、小児と成人、などの垣根なく協力し、集学的に診療を行っている病院です。病院はもちろん、働く先生の個性も豊かです。また神経内科では、療養介護病床が、県内に先駆けて配置され、呼吸器装着後の患者さんを含めた難病患者さんの診療が盛んです。リハビリテーション科や、地域医療連携室も、難病患者さんの生活支援に貢献しており、日々勉強になることばかりです。世界的な研究や診療をされ、かつ志も高い寄稿されるに相応しい先生が他にたくさんおられる中で、取立て私がお伝えできる事といえば、西新潟の子育て医師支援の紹介が期待された役割としますので、当院の育児短時間勤務制度を中心に御紹介致します。

私は卒後12年、3歳と5歳の子供がおります。当院で育児短時間勤務制度が導入された後、2008年から神経内科でお世話になっています。勤務形態は8時半～4時15分、週5日勤務です。土曜日に月一回の日直をしています。有難いことに当直業務は免除して頂いています。保育園児を抱え、難病の患者さんの主治医を務められると考えるのは、不遜なのではないかと悩んだこともありますが、周囲の先生方のサポートを得て、こうして働いていられます。良い職場に恵まれたことが、続けられている主な理由ですが、仕事を続けるため、特に重要であると感じていることがあります。

それは、意識して、他の先生の意見を伺うことです。正直に言って、自分で精一杯で、他の子育てをされている先生方の状況を把握することは難しく感じます。例えば私の場合は、両親が老いた

体に鞭打って、張り切って手伝ってくれていますが、他の子育て中の先生方のなかには、ご実家が遠方の方もおられます。一体どうやっておられるのだろうと不思議で仕方ありません。また、大学で研究をされながら、外来のアルバイトをしている先生方の場合、子供の病気は突然なので、私のように病棟中心に働く者より、都合をつけるのは難しいのではないのでしょうか。このように、子育て中の女医と抽象化されますが、違うシステム、違う先生のもとで働いているのですから、他の方の勤務形態を参考にするわけにもいきません。やはり意識して、普段一緒に働く先生方のご意見を伺う事、そして改善が難しくければ、それをお伝えしつつ、今後の課題として、実現可能な方法について考えることが大切なのだと思います。

今春、未満児をもつ若い先生が、病棟業務は諦めたと風の噂で伺い、さびしく感じていました。ところが先日お目にかかった際、もう1年がんばってみようと思つたと、お元気そうにされていくうれしく思いました。チーフレジデントの先生が、自分がサポートするから、病棟医として頑張れと背中を叩いて下さったそうです。立場の違う後輩に、そこまで気配りできるとは立派な方だと感じ入りました。私も、医者は辞めるべきだと感じられた時が何度も何度もありました。その都度、周囲の先生方のお心遣いがあり、こうして続けていられます。周囲へのご迷惑を振り返ると、恥じ入るばかりですが、仕事は続けてこそ、次に繋がるのだからと自分に言い聞かせている毎日です。

(国立病院機構西新潟中央病院)